

公益社団法人私立大学情報教育協会
2020年度第3回情報セキュリティ研究講習会運営委員会議事記録
(情報セキュリティ研究講習会運営委員会と情報セキュリティ対策問題研究小委員会の合同会議)

- I. 日 時：令和3年1月22日（金） 16:00～17:00
II. 場 所：Zoom 会議室
III. 参加者：（講習会）柴田担当理事、宮川委員長、中嶋副委員長、高橋副委員長、浜委員、
中田委員、鈴木委員、峰内委員、西松委員、市川アドバイザー
（小委員会）中嶋主査、菊池委員、高倉委員、松坂アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 情報セキュリティ関連情報リンク集について

本協会 Web に「コロナ禍の今だから確認しておきたい情報セキュリティ（リンク集）」を情報セキュリティ対策問題研究小委員会のメンバーからの意見を踏まえて掲載しており、その項目・内容について確認した。

- ・ リンク集は、テレワークやオンライン授業などでの情報セキュリティについて、総務省など各機関の除法をリンクしていることが報告され、確認した。
- ・ 本協会 Web での掲載場所の確認があり、現状は「お知らせ」の上位に項目表示されているが、順次繰り下がることから、目立たせる工夫を考えることにした。

2. 令和3年度の大学情報セキュリティ研究講習会及び事業計画について

来年度は、情報提供中心のオンラインでの開催を10月中旬に行いことが提示され、以下のような意見があった。

- ・ 大学の現状を考えると、事業計画の説明にテレワークやオンライン授業の項目を含めてはどうか。
- ・ 文科省の資料では、人材育成が求められていることと、CISO ではなく学長等法人トップへのメッセージとしており、先端技術除法の保護などが求められている。
- ・ 攻撃については、Emotet の注意喚起や大学情報の漏えい問題など、オンライン利用が増加している現状を狙った脅威が大きくなっており、フィッシング攻撃も4倍になってきている。
- ・ コロナ禍のイベントでは、オンラインでの参加が増えており、オンライン開催を実施するのは良い機会ではないか。
- ・ オンラインで演習を行うことは難しいと考え、攻撃被害を想定した検知・調査、分析、事後対応についても情報提供の形で説明してはどうか。
- ・ テレワークの環境では、自宅から VPN 接続しており、自宅のパソコンがマルウェアに感染して大学で被害が発生しても、自宅のパソコンが原因と気付くことや初動対応に時間がかかることが想定される。そのため、境界防御ができないことになり、エンドポイント対策が必要となってくる。
- ・ 演習は、クイズを行うレベルなどでも双方向の形が実現できないか。例えば、ブレイクアウトルールでの情報共有など、何らかのディスカッションを組み入れてはどうか。その場合、掲示板で事前に課題を提示して、ブレイクアウトルームで意見交換するなどの運営ができないか。または、テーマを設定して議論させてはどうか。
- ・ テレワーク対応が増えており、自宅パソコン利用でのセキュリティ注意喚起が必要で、エンドポイントを含めたセキュリティ対策が求められている。

V. 次回のスケジュール

来年度の「大学情報セキュリティ研究講習会」は10月中旬にオンラインで開催することにし、4月以降に運営委員会を開催して講習内容を検討することにしていく。